

タイトル「**2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	コンプライアンス実務特講		
担当教員	中村 良		
対象学年	2年	開講学期	前期
曜日・時限	金 2		
講義室	1209	単位区分	選,選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	—		
科目中分類	修士		
科目小分類	講義・発展		
科目の位置付け（開発能力）	科目の位置付け（開発能力） ■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1 [意欲・経験・適性] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察（25%） DP2 [学識・専門技能] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（50%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（25%）		
教員の実務経験	ありません。		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	危機管理学の実践的な側面を学修するため、本講では、企業における法令違反、労務問題、情報漏洩等のコンプライアンスに関わる問題とその対応に関するケーススタディを行う。ケーススタディでは、実際にコンサルタントとしてコンプライアンスに取り組む事業者等の知見を踏まえながら、事前の対策や事後対応に関する演習を行う。ケーススタディを通じて企業等事業者における危機管理のフォーマル・インフォーマルな制度、手法、行動心理等の機能や危機管理サイクル、危機管理に影響を及ぼす要素等について実践的に学修する。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とする。 授業形態は、講義形式により行います。なお、対応するコンピテンシに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード：法令遵守、ガバナンス、刑法、経済刑法、会社法、独占禁止法、金融商取引法、不正競争防止法、経済安全保障		
授業の趣旨	■ 副題 コンプライアンス（法令遵守）体制の構築（予防）と違反行為への対応の検討 ■ 授業の目的 この講義・演習を通じて、履修者はコンプライアンス体制の構築・運用、不祥事対応について基礎的な知見を身につけるとともに、予防、発生時対応、事後対応、再発防止対応について、実務的対応ができるようになることを目的とする。		
総合到達目標	総合到達目標 【総合到達目標】 受講生は授業で得た知識等を役立て、コンプライアンス体制の構築・運用、不祥事対応について留意点を理解し、予防、発生時対応、事後対応、再発防止について具体的な対応ができるようになる。 【個別行動目標】 ■コンプライアンスの意義、法的根拠、体制について自分の言葉で説明できる。（第2回～3回） ■コンプライアンス体制の構築・運用する知識を身につけるとともに、その運用上の問題点について自分の言葉で説明できる。（第4回～5回） ■内部統制体制の構築・運用について、実者観点から説明できる。（第5回） ■不祥事対応体制の概要と対応策について説明できる（第6回～9回） ■不祥事発生時における外部対応について、留意点等を理解し、自分の言葉で説明できる（第10回～12回） ■子会社・海外拠点における不祥事対応について、留意点等を理解し自分の言葉で説明できる（第13回） ■不祥事当事者の民事責任・刑事責任について、その対応の留意点を理解し、事例ごとの対応ができるようになる（第14回） ■不祥事に対する具体的な再発防止策を策定できるようになる（第15回）		
成績評価方法	成績評価方法 ■ 定期試験 1 回（50%）：DP2(50%) （評価の観点）選択式問題により、授業で説明された内容について、正確に理解しているかどうか確認します。 （フィードバックの方法）Google Classroomを通じて試験のポイントを解説します。 ■ レポート 1 回（50%）：DP1:20% DP4:30% （評価の観点）レポートの内容が課題の解答様式に合っているか、参考文献、引用の表示が正しく行われているか注意して確認します。 （フィードバックの方法）Google Classroomを通じてポイントを説明します。		
履修条件	特にありませんが、「企業広報特講（R5MR0020）」、「レピュテーションリスク実務特講（R5MR0026）」を履修されることを強く勧める。		
履修上の注意点	履修上の注意点 ■ 出席が前提となります。 予め提示された資料をよく読んでくること。		
授業内容	回	内容	

1	①授業テーマ 授業ガイダンス・コンプライアンスの意義について ②授業概要 受講上の注意、講義の進め方、講義の対象、評価方法について説明する。 コンプライアンスの意義、コンプライアンスと内部統制の関係、COSOからERMへの発展について解説する（DP1・DP2・DP3） ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
2	①授業テーマ 取締役の善管注意義務としての内部統制論について ②授業概要 取締役の権限と善管注意義務について概観し（DP2）、その上で善管注意義務と内部統制の関係について、会社法上のコンプライアンス体制について説明する（DP1・DP2・DP3） ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
3	①授業テーマ 会社法上の内部統制・金融商品取引法上の内部統制について ②授業概要 当該性の概要と沿革について説明する(DP2・DP3)。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分）
4	①授業テーマ コンプライアンス・内部統制の構築について ②授業概要 コンプライアンス体制の構築プロセス、基本方針の策定、具体的仕組みの構築について解説し、受講生が自ら具体的なコンプライアンス体制を構築できるようになる（DP1・DP2・DP3） ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
5	①授業テーマ 内部統制の日常活動について ②授業概要 コンプライアンス・プログラムの策定、情報発信・周知、教育・研修、情報収集体制の整備、モニタリング体制、報告について解説する（DP1・DP2・DP3）。受講生は具体的な内部統制部門の通常業務について理解し、自分の言葉で説明できるようになるとともに、その問題点について指摘できるようになる（DP2・DP3）。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
6	①授業テーマ 不祥事対応の基本知識について ②授業概要 府招待対応の重要性、初動対応の重要性、不祥事対応の概要について説明する（DP1・DP2）。 受講生は、不祥事対応の重要性、概要について自分の言葉で開設できるようになる(DP3)。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
7	①授業テーマ 事実調査Ⅰ（社内調査の進め方）について ②授業概要 権限と義務、基本的な手順、チームの立ち上げ、証拠の収集・保全、書庫の分析、ヒアリング、外部調査、とりまとめについて解説する（DP2）。 受講生は、調査の重要性を理解するとともに、その目的を理解できるようになる（DP2） ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
8	①授業テーマ 事実調査Ⅱ（調査委員会）について ②授業概要 委員会の種類、設置手続き、委員構成、運営について解説する（DP2）。 受講生は、委員会の設置に要否、手続き、委員の選抜、運営について自分の言葉で説明できるようになる(DP3)。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
9	①授業テーマ 事実調査Ⅲ（調査中、調査後における当事者の処遇）について ②授業概要 調査中の当事者の処遇、調査後の当事者の処遇について解説する(DP2)。受講生は、処遇を検討するうえで配慮すべき事項等について自分の言葉で説明できるようになる(DP3)。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。

	④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
10	①授業テーマ 監督当局・取締当局に対する対応について ②授業概要 不祥事発生時の取締当局、監督当局への報告等の対応について解説する（DP1・DP2）。受講生は、当該対応時の注意点について自分の言葉で説明できるようになる（DP3）。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
11	①授業テーマ 株主・取引先・監査法人への対応について ②授業概要 株主対応、取引先対応、監査法人対応の注意点について解説する（DP2）。受講生は、当該注意点について自分の言葉で説明できるようになる（DP3）。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
12	①授業テーマ マスコミ対応について ②授業概要 開示・公表すべき事実・場面、留意点について解説するとともに、インサイダー取引規制との関係についても説明する（DP2）。受講生は、当該対応について、自分の言葉で当該注意点について説明できるようになる（DP3）。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
13	①授業テーマ 子会社・海外拠点における不祥事対応について ②授業概要 子会社、海外拠点における不祥事リスクへの対抗等留意点を解説する（DP1・DP2）。受講生は、留意点等について自分の言葉で説明できるようになる（DP3）。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
14	①授業テーマ 不祥事当事者の民事責任・刑事責任の追及について ②授業概要 裁判手続きを通じた民事責任追及、裁判外での民事責任追及、資産保全等について、告訴すべきか否かをの留意点について解説する（DP2）。 受講生は、どのような場面でどのような選択をすることが会社にとって最良かについて判断できるようになる（DP2・DP3）。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
15	①授業テーマ まとめ（再発防止について） ②授業概要 これまでの授業のまとめと不祥事の再発防止策について受講生と議論し、議論を通じて見識を深めるとともに、再発防止策を策定できるようになる（P1・DP2・DP3）。 ③予習（120分） Google Classroomを通じて指定された資料を読んでおく。 ④復習（120分） 授業内容をまとめておく。
関連科目	関連科目 「危機管理法制1（企業・取引）（R5MR0006）」、「危機管理法制2（企業・経済）（R5MR0008）」、「企業広報特講（R5MR0020）」、「レピュテーションリスク実務特講（R5MR0026）」
教科書	特にありません。
参考書・参考URL	参考書・参考URL 会社法：詳細な解説本として、江頭憲治郎『株式会社法（第8版）』（有斐閣・2021年） コンプライアンス：中村直人編著『コンプライアンス・内部統制ハンドブック』（商事法務・2021） 企業不祥事対応：尾崎恒康監修『役員・従業員の不祥事対応の実務（調査・責任追及編）』（レクシスネクシス・ジャパン・平成26年）、同監修『役員・従業員の不祥事対応の実務（社外対応・再発防止編）』（レクシスネクシス・ジャパン・平成27年）
連絡先・オフィスアワー	連絡先・オフィスアワー 連絡先 Email: nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp オフィスアワー 初回授業において説明する。
研究比率	研究比率 ■危機管理領域との対応 災害マネジメント10% パブリックセキュリティ30% グローバルセキュリティ30% 情報セキュリティ30% ■危機管理と法学のバランス 危機管理50% 法学50%

